

国家依存症管理サービス機構（NAMS）クリニックの視察

～総合的な依存症対策の概要について～

シンガポール事務所

1 カジノを核とする IR(統合型リゾート)開業に対する不安

統合型リゾート（IR）である「マリーナベイ・サンズ」や「リゾートワールド・センターサ」を観光政策の柱の一つとするシンガポールには、毎年、世界各国から多くの方々が訪れています。2013年には1,556万人の人々が、シンガポールを訪れました。同年の訪日外客数は、初めて1,000万人を超える1,036万人を記録しましたが、シンガポールを訪れた人々の数は、日本を約500万人程度上回ったこととなります。

中でも、カジノを含むIRは、開業した2010年以降、毎年、前年を上回る数の外国人がシンガポールを訪れている事からも集客効果は高いと考えられており、日本の自治体の関心も高まっています。

他方、カジノについては、犯罪やギャンブル依存症の増加、青少年への影響などが懸念されています。シンガポールでも、IR開業にあたり、カジノが社会に与えるマイナスの影響を懸念する声があったものの、これらの課題への対策を講じる事で施設の開業を実現しました。

この度、ギャンブル依存症を含めた総合的な依存症の診療施設である国家依存症管理サービス機構(NAMS : National Addictions Management Service)クリニックを視察しました。

2 国家依存症管理サービス機構（NAMS）クリニック

国家依存症管理サービス機構(NAMS)は、1990年に設立されたアルコール関連中毒治療センターを前身とし、2001年に全般的な依存症中毒関連管理プログラムに改編され、2008年に総合的な国家依存症対策実施機関として設置されました。

そして、2010年7月には、総合的な依存症治療に関する診療機関としてNAMSクリニックが開設され、9月にはギャンブル依存症の事前予約なしでの診療が開始されました。

NAMSクリニックでは、薬物依存症や行動的依存症（カジノ、インターネット等への依存症）全般に対応した外来診療、入院診療が行われています。

シンガポールではそれまで、依存症についての診療は精神科のクリニックで行われていましたが、依存症の治療を受けようとする人々にとって、心理的に通いにくい側面がありました。そのため、NAMS クリニックは、より受診しやすい依存症に特化した総合的な診療施設として開設された点が特徴です。人々が通いやすい場所で、適切な費用のもと、高水準



NAMS クリニック

の治療が受けられるような工夫がなされています。

NAMS クリニックはシンガポールの北東部に位置していますが、ギャンブル・アルコール依存症については、毎週金曜日に西部地域の医療クリニックにおいても診療が行われています。治療は、医師、カウンセラー、ソーシャルワーカーが連携して総合的なチームで行っており、年中無休、24時間体制で、患者への電話相談対応が行われています。病院内での関係者の協力に加え、豊富な経験を積んでいる海外の専門家等とも連携して、様々な症状に適切に対応できるような体制がとられています。

依存症の具体的な治療にあたっては、依存症患者が、回復後の自分の将来の姿をイメージできるよう、患者との1対1のカウンセリング治療に加え、同じ症状を持つ患者同士でのグループカウンセリングも行っているということで、特に、ギャンブル依存症の患者に対してはグループカウンセリングの効果は高く、症状の回復に効果を上げているということでした。更に、患者の家族も対象に依存症に対する教育を行う事で、回復後の再発を防いでいるということでした。

3 おわりに

NAMS クリニックは、シンガポールの依存症対策を行う中核的な施設です。

IR 誘致を目指す日本の自治体も、依存症対策に強い関心を示しています。ギャンブル依存症を含めた総合的な依存症の治療機関は、様々な症状を抱える患者、家族、社会にとって大切な施設であると思います。

日頃、依存症対策が社会的に大きなテーマとして語られることは少ないですが、カジノの誘致や開業に向けた取組が検討されることを機に、ギャンブル依存症を含めた依存症について活発な議論や意見交換がなされ、依存症が社会に広く認知されることが重要だとの説明者の言葉が印象的でした。

(仲田所長補佐 堺市派遣)